

しば子先生の 芝生教室

生徒：今年は急に寒くなってしまいました。人間も寒いですが芝生も寒いんですよね。

先生：ほんとに今年は急に寒くなってしまって・・・

生徒：芝生にとっても辛いですよね・・・

先生：そうね・・・寒地型の芝生であっても10℃以下になると生育は緩慢になってしまうわね・・・

生徒：霜が降りると急に生育が悪くなりますよね。

先生：そうね・・・霜の上をプレーヤーが乗ると足跡通りに赤くなってしまいうわね・・・

生徒：そういうのって仕方ないんでしょうか・・・

先生：そうね、寒地型とはいっても10℃、5℃、0℃と下がっていけば生育は止まり、あまりにも凍結期間が長ければ厳しい状況になるわね・・・

生徒：対策はあるのでしょうか？

先生：芝生は人間と違って体温を上げるような機能はないからいかに寒さに耐えられるかが肝心ね・・・

生徒：寒さに耐える・・・？

先生：話は簡単なのよ・・・寒さに耐えられる十分な体を作ればいいのよ・・・

生徒：体を作る？運動が必要ってことですか？

先生：芝生に運動はさせられないわよ・・・葉が寒さに耐えるということは丈夫な細胞を作るとのことよ

生徒：丈夫な細胞・・・？

先生：芝生の体は何から出来てるんですしたっけ？

生徒：炭素(C)と水素(H)、酸素(O)が95%以上でその次に窒素(N)が2~6%、リン(P)が0.5~1%、カリ(K)が1~2%ぐらいでしょうか・・・

先生：そうね、芝生の種類によっても多少違うけどおよそそのような構成になっているわね・・・

生徒：つまりそのバランスがきちんと取れている状態が望ましいということでしょうか・・・

先生：そう、夏から秋、秋から冬にかけて十分な肥料を与えてしっかりと芝生に養分を吸収させて冬を迎えるということが大切。

生徒：なるほど晩秋施肥の重要性ということですね。

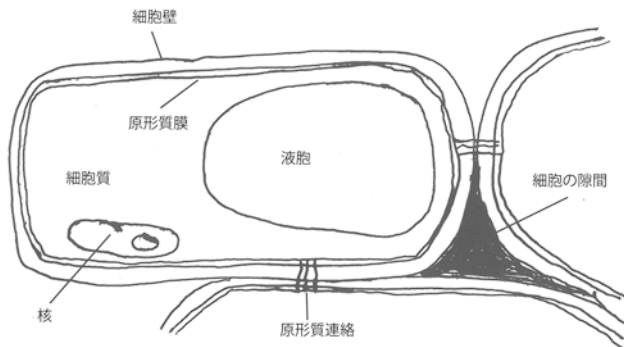
先生：その通り・・・寒地型の芝生にとっての晩秋施肥の重要性は以前から指摘されていることだけど、近年では暖地型の芝生にとっても大変重要であることがわかってきているわ・・・



生徒：丈夫な細胞壁は病害の侵入を防ぐだけでなく霜や寒さに対する抵抗性も上げるのですね・・・

先生：そうね、それだけでなく十分な養分が行き渡っている細胞には濃度の高い水溶液が細胞内に満たされているわ、そのために氷点が下がるのよ・・・養分が少ないと細胞内の溶液の濃度が低いために簡単に凍結して細胞がパンクしてしまうのよ・・・

生徒：なるほど、細胞中の溶液の濃度によって寒さに対する抵抗性が変わるのでね・・・



先生：その通り・・・寒地型の芝生はたとえ寒くても休眠はしていないのでわずかながら生育しているわ・・・しかし寒すぎて光合成が十分にできないので秋に蓄えた養分は厳しい冬を越すのに大変重要よ・・・

生徒：病気に対する抵抗性だけでなく寒さに対する抵抗性も十分な養分を与えることが重要なのですね・・・

先生：その通り、細胞中の溶液の濃度が下がると肥料焼けなどの葉焼けの起きる原因にもなる・・・またカリ(K)は寒さや暑さの環境ストレスに対する抵抗性を上げることができるから秋の施肥にはカリ肥料は重要ね・・・

先生：改めて養分管理の重要性がわかりました・・・でも多くの方が窒素肥料を与えると芝が悪くなるとか病気が出るとか言っていますがどうなのでしょう・・・

先生：芝生の管理で窒素肥料が重要なのはあまさら議論の余地がないわ・・・窒素を悪者に行っている人は自分が使っている肥料の成分の量や成分の種類、与えた時期と量、土壌中の化学性、そしてそれらの肥料成分がどれだけ芝生に吸収されているか・・・土壌分析や葉身分析を通してきちんと科学的に理解しているかどうか疑問ね・・・